

平成17年度 第2回 経営審議会議事要録

日 時 平成17年4月19日（火）12：30～14：30

場 所 小倉ステーションホテル

出席者 <委員>阿南理事長、矢田副理事長（学長）、重淵理事、出口理事、棚次理事（副学長）、国武理事（副学長）、羽田野理事（事務局長）、明石委員、稲積委員、高橋委員

配布資料

- 1 公立大学法人北九州市立大学経営審議会名簿
- 2 法人化準備スキーム図
- 3 地方独立行政法人制度の概要
- 4 公立大学法人北九州市立大学中期計画概念図
- 5 公立大学法人北九州市立大学中期計画案
- 6 中期計画（案）に関する欠席委員等の意見の概要

議事要旨

第1号 公立大学法人北九州市立大学中期計画について

○大学の法人化は企業化するという理解でいいのか。

○民間の知恵を入れて効率化するという。制度上は独立採算ではなく、採算第一ではない。

○自主財源比率は、現在6割であるが、長期展望として7、8割とすることは考えているか。

○大学の法人化は民営化ではない。あくまで公立大学である。私立と異なり、授業料の値上げ等につなげるのは限度がある。

○公立大学の場合、社会貢献的な要素が必要である。

○中期目標と中期計画の関係はどうなっているのか。

○中期目標は市が大項目を大学の目標として決め、中期計画はその大項目に従って計画を決める。6年という期間は法律で決まっている。

○6年というのは期間が長い。変化のスピードは早い。実際に実施する場合には3年位でスピードアップして取り組む必要があるのではないか。

○組織関係は前半の3年間で、教育研究関係は4～6年間でやるのが妥当であろうと考えている。

○企業の目標や計画は、方針があり、業務目標があり、方策があるという作りをしている。

それに比べるとこの中期計画はレベルが混じり合っていてわかりにくい。また、決定すれば即実施できるものが混じっている。タイムスケジュール化しないと具体的にわかりづらいものもある。

○大学の先生方にも素案段階から入っていただいたが、今後も学科長等に参画していただいてボトムアップ型で現場の問題等を踏まえて、進めていきたい。

○4つの基本目標のどれを中心とするのか。

○教育が中心である。

○優秀な学生を集め、育てるというアウトプットが地元はどう出てくるのか。数字で出てくるとわかりやすい。

○数的評価は難しいが、学生評価、志願率、企業アンケートは相関性がある。

○国公立大学はPRが下手である。イメージを高める広報戦略を考えないといけない。それが経営戦略につながる。

○外に対する広報と内に対する広報。内に対する広報で情報の共有化を図る。

○パンフレットや定例記者会見といった従来型の広報ではなく、経営の基本戦略の一つとして組み込むべきである。

○教員もスター的存在になれば歩く広告塔となれる。

○経営、効率、顧客に関して、大学をいい方向にもっていきたい。

○これからも市職員の派遣はあるのか。

○市から職員の派遣は受けるが、就職や入試に関しては、外部からプロパー職員の起用を検討したい。

○学生の募集に関しては、誰の責任で行うのか、明快な取組みをした方がよい。

○理系の学部では、学生募集は教職員が一体となってい、就職も教員個人が努力している。

○教員の評価をどうするのか。

○今年度から全学的に評価制度を導入した。4つの領域で結果は研究費に反映し、毎年見直しを図ることとしている。

○受験生が減っていく中で、社会人に対するビジネススクールなど、企業の社員教育の分野等へ需要開拓をしていくべきである。

○中小企業を対象としたビジネススクールを望む声強い。社会貢献と事業活動を合わせてやらないといけないのではないか。

○人権啓発の項目について、2月に新しい答申が出され、本年7月に北九州市の新しい人権指針が策定される予定と聞いているので、それを基本に修正を加えてほしい。

○留学生に関して、優秀な学生にはそれなりの対応をするように、地域である程度極端な差別化を図ってもいいのではないか。

集中と選択をしてもいい時期に来ている。

【議長】 本議案について原案どおり承認してよろしいか。

【委員全員】 (異議なし)

報告

(1) 第1回経営審議会議事録について

事務局から議事録について、次回より会議終了後、資料の送付により確認を行い、確認が取れた段階で公表することとしたい旨説明があった。

(2) 次回開催について

事務局から、次回審議会の開催について、平成17年6月21日(火) 14:00から開催したい旨説明があった。